観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月３０日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･(地域連携ＤＭＯ)･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）隠岐ジオパーク推進機構	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	隠岐諸島（島根県隠岐郡海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町） ※隠岐ユネスコ世界ジオパーク登録範囲	
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町	
設立時期	令和２年４月１日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	24 人【常勤 24 人（正職員 12 人・嘱託、出向等 12 人)】	
代表者	【理事長】 （氏名） 池田　高世偉（非常勤）	隠岐の島町長
	【業務執行理事兼事務局長】 （氏名） 室﨑　隆司(専従)	2024 年 4 月に着任。 島根県職員幹部としての経験を活かし、事務局長として主に人的組織運営、行政との調整に従事。
	【業務執行理事】 （氏名） 野邉　一寛(専従)	2009 年 6 月隠岐ジオパーク推進協議会を立ち上げ、2013 年 9 月ユネスコ世界ジオパーク認定に尽力。ジオパークを基盤とした観光をはじめとする地域振興を推進。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー）	（氏名） 河本　直起（専従）	大学で統計学を学び、観光の現場（海士町観光協会）で 2 年間勤務。観光地域マーケティングについて高い知見と能力を持つ。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー）	【事務局次長】 （氏名） 角橋　隼人(専従)	隠岐観光協会の事務局長として 10 年間勤務。法人運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。
環境保全担当責任者	（氏名） ヴォウォシェン・ヤゴダ(専従)	ポーランド出身。島根県国際交流員として来日。ユネスコ世界ジオパークの審査員。隠岐ジオパークにおける環境保全計画の責任者。
教育担当責任者	（氏名） 長田　樹（専従）	学校教育、社会教育活動支援、隠岐自然館運営責任者。

様式１

連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	海士町交流促進課（観光交流担当部署） 海士町教育委員会（教育担当部署） 西ノ島町産業振興課（観光交流担当部署） 西ノ島町教育委員会（教育担当部署） 知夫村地域振興課（観光交流担当部署） 知夫村教育委員会（教育担当部署） 隠岐の島町商工観光課（観光交流部署） 隠岐の島町環境課（環境担当部署） 隠岐の島町教育委員会（教育担当部署） 島根県隠岐支庁観光振興課（観光交流部署） 島根県隠岐支庁地域振興課（地域振興部署） 島根県隠岐教育事務所（教育担当部署） 環境省大山隠岐国立公園管理官事務所（環境担当部署）
連携する事業者名及び役割	〔機構会員〕 隠岐の島町商工会（一般事業者との連携） 西ノ島町商工会（一般事業者との連携） 隠岐國商工会（一般事業者との連携） 島根県農業協同組合隠岐地区本部（農業関係者の連携） 島根県農業協同組合隠岐どうぜん地区本部（農業関係者の連携） (一社)島根県隠岐地区建設業協会（土木建築関係者との連携） 隠岐島後森林組合（林業関係者との連携） 隠岐島前森林組合（林業関係者との連携） 漁業協同組合 JF しまね西郷支所（水産業関係者との連携） 海士町漁業協同組合（水産業関係者との連携） ㈱山陰合同銀行西郷支店（金融関係者との連携） ㈱島根銀行西郷支店（金融関係者との連携） 隠岐一畑交通㈱（交通事業者との連携） 隠岐汽船㈱（交通事業者との連携） （一社）島根県旅客自動車協会隠岐支部（交通事業者との連携） 隠岐観光㈱（交通事業者との連携） 隠岐海士交通㈱（交通事業者との連携） (一社)隠岐の島町観光協会（観光関係団体との連携） (一社)西ノ島町観光協会（観光関係団体との連携） (一社)海士町観光協会（観光関係団体との連携） 知夫里島観光協会（観光関係団体との連携） ㈱一畑トラベルサービス隠岐営業所（旅行事業者との連携） 山陰観光開発株式会社（旅行事業者との連携） 島根県立隠岐高等学校（学校との連携） 島根県立隠岐水産高等学校（学校との連携） 島根県立隠岐島前高等学校（学校との連携） 島根県立隠岐養護学校（学校との連携） 隠岐小中学校長会（学校との連携） 隠岐酒造㈱（食品事業者との連携） 隠岐青年会議所（一般事業者との連携） 特定非営利法人　隠岐しぜんむら（自然環境団体との連携） (一社)隠岐ジオパークツアーデスク（観光関係者との連携） 中国電力ネットワーク㈱隠岐ネットワークセンター（電力会社との連携） ㈱前川商会（一般事業者との連携） 岡部㈱海洋事業部（環境団体との連携） (有)will さんいん隠岐オフィス（一般事業者との連携） 隠岐の島町ホテル旅館組合（観光関係団体と連携） 緑のコンビナート推進協議会（環境団体と連携）

	〔個別企業との提携〕 イオン㈱（機構活動への支援） ㈱モンベル（誘客に係る連携） ㈱ＮＴＴドコモ（ICT を活用した情報発信） ㈱SONY（ICT を活用した情報発信） Google（ICT を活用した情報発信） ㈱JTB（観光振興及び地域振興に関する包括連携協定）
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】 当機構は「総会」「理事会」「地域づくり推進会議」「観光部会」「教育・環境部会」および「事務局」を設置して運営にあたっている。 「総会」は当機構の最高決定機関として当機構の事業計画及び収支予算書（以下、「事業計画等」と言う）等の承認機関として、観光・宿泊団体、交通事業者等の長（代表）、各種経済団体、行政及び議会からなる全会員によって構成している。 「理事会」は、総会に提出する事業計画等（案）の決定権を有し、各町村長、隠岐汽船（株）社長、島根県環境生活部長、商工労働部長、隠岐支庁長、各町村の観光協会長及び隠岐地域の各商工会長によって構成している。 「地域づくり推進会議」は、地元旅行会社、宿泊事業者、ガイド団体等の代表者、各町村の観光協会、商工会事務局長及び各町村担当課長によって構成し、事業計画の素案等の検討を行っている。 「観光部会」「教育・環境部会」については下述『実施体制』にて記載する。 【各組織の構成員は別紙 1】
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	世界遺産が保護を主な目的として指定された資源が主体であることに対して、ジオパークは地域資源の保全だけでなく、資源の活用によって持続可能な、観光をはじめとする地域振興を行うことを目的としており、その地域でジオパーク活動を推進する地域住民の活動も評価の対象としている。このため、貴重な地域資源を活用し、隠岐の人々が誇りと愛情をもって隠岐を語り伝えられるようになることによって、持続可能な経済活動、文化活動を推進し、隠岐地域の活性化と振興を図るための評価指標の一つに島民の関心度を定めている。 当機構では、学校等（保育所、小学校、中学校、高等学校）や公民館と連携を密に図りながらジオパークを題材とした教育活動や住民参加を前提とした地域の清掃事業等を頻繁に実施している。
法人のこれまでの活動実績	**【活動の概要】** 2011 年 4 月世界ジオパーク認定を目指し、隠岐ジオパーク推進協議会事務局を設置。2014 年 3 月世界ジオパーク認定により、名称を隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会へ変更。2021 年 DMO 登録申請を前提として、一般社団法人に組織再編した。2021 年３月候補 DMO、11 月に登録 DMO の登録を受ける。 令和４年４月１日付で隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会に隠岐観光協会が合併し、名称を一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構へ変更。 法人の定款(第 4 条)では以下事業を定める。 (1)隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進に係る会員相互の連携に関すること。 (2)隠岐ユネスコ世界ジオパークに係る住民啓発及び教育と保全に関すること。 (3)隠岐ユネスコ世界ジオパークを基盤とした観光による産業の振興に関すること。 (4)他団体が行う関連事業との連携に関すること。 (5)その他、目的を達成するために必要な事業。

令和６年度実施した主要な事業概要は以下のとおり。

事業	実施概要
情報発信・プロモーション	１．国内マーケットへの情報発信事業 （WEB、SNS での情報発信） ２．企画乗船券造成事業 ３．ジオパーク周遊コンテンツ開発事業 ４．インバウンド誘客事業
受入環境の整備	１．ユーザー体験の整備 ・WEB サイト強化、維持管理運営 ２．ジオ拠点施設魅力化事業 ３．ガイド活用事業 ４．宿泊キャパシティマネジメント事業 ５．港・空港・二次交通対策 ６．ランドオペレーター事業（問合せ・予約窓口１本化） ７．周辺産業への波及事業 ８．保全事業 ・ジオサイト看板追加及び更新 ・多言語による観光客向けの解説看板の追加更新 ９．学術研究事業 １０．観光地マネジメント事業
観光資源の磨き上げ	１．隠岐ジオパークの地域資源を保全・活用した島コンテンツ拡販事業 ２．ジオパークコンテンツブラッシュアップ事業 ３．社員研修プログラム作成

【定量的な評価】
個別の事業においては事務局内で評価を行うともに、各部会、地域づくり推進会議、理事会、総会の場において各事業の評価を行う。

実施体制
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

【実施体制の概要】
当機構では目的・活動内容に応じて 2 つの専門部会を構成し、事業計画等の検討及び提言を行っている。ジオパークを活用した学校教育、ガイド養成、ジオパークの科学的な研究、資源保全・保護活動を担当する「教育・環境部会」、ジオパークの PR、観光情報発信、マーケティングを担当する「観光部会」の 2 部会を設置しており、民間旅行会社、関係団体の代表に加え、地域の教育関係者、環境省隠岐管理官事務所、自治体関係者等幅広い関係者からなる。
【各部会の構成員は別紙 2 参照】

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

・以下黄色線内側

【区域設定の考え方】

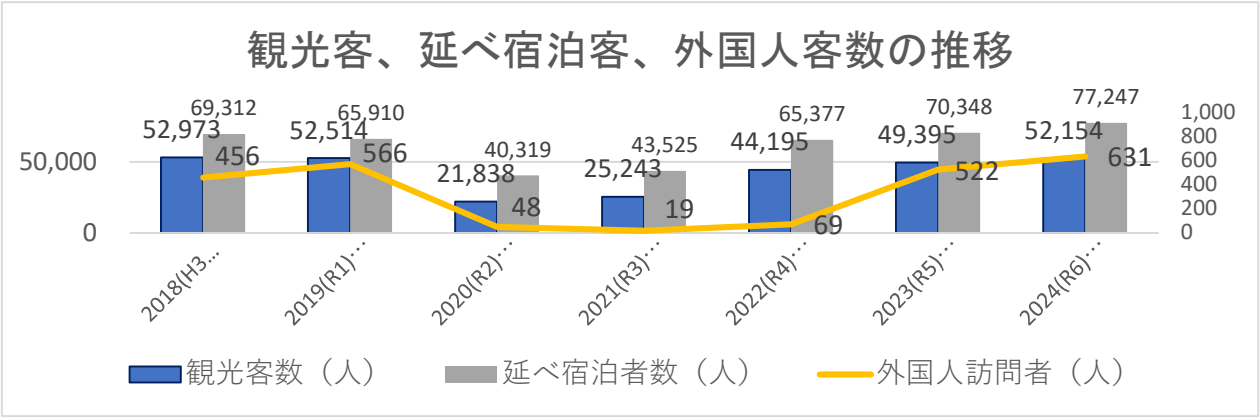
隠岐ユネスコ世界ジオパーク全域（登録地域）である隠岐諸島（海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町）が当機構の管轄区域となる。

ジオパークは、一つ以上の保全すべき世界的・科学的な価値を有する大地の遺産を中核にして設定される。隠岐諸島の大地の遺産は以下に集約される。

(1)隠岐片麻岩に代表される、日本海形成の過程を記録した地質
(2)国賀海岸、白島海岸、赤壁、明屋海岸等、隠岐島各所の侵食の景勝
(3)第四紀の気候変動などを反映・記録している隠岐独自の植生分布
(4)離島環境の資源を持続可能な形で利用してきた牧畑等、伝統産業と文化

【観光客の実態等】

観光客数は、2011 年度(H23 年度)に 6 万人を超えたが(61,186 人)、その後 5 万人台を推移している。外国人訪問者については、2011 年度(H23 年度)が 111 人であったが、2017 年度（H29 年度）は 579 人となった。2018 年度(H30 年度)は 456 人、2019 年(R1 年度)は 566 人となっており、全体数と同様に高止まり傾向であった。2020 年はコロナウィルスの影響により、来島観光客数は 2 万 2 千人（うち外国人は 48 人）と半減したが、2024 年の来島観光客数は 5 万 2 千人（うち外国人は 631 人）と回復傾向にある。



【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

隠岐ユネスコ世界ジオパークにおける「大地の遺産」に親しめる場所をジオサイトとして定めており、ジオサイトとして設定した場所は 74 箇所ある。また「独自の生態系」に関する場所を自然サイトとして、11 箇所設定している。「人の営み」に関する場所については文化サイトとして 24 箇所設定している。

知夫の赤壁（知夫村：ジオサイト）

壇鏡の滝(隠岐の島町：ジオサイト)

焼火神社（西ノ島町：文化サイト）

隠岐神社（海士町：文化サイト）

隠岐には 100 以上の神社があり祭礼や神楽等の催事が頻繁に開催しており、地域住民の他観光客が参加しており観光の目玉となっている。その他、牛突き大会や隠岐の島ウルトラマラソン、西ノ島ハーフマラソン等のスポーツイベントが例年開催されており、島外からの参加者も多い。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

海士町（施設数 15,定員 297, 客室数 89）
西ノ島町（施設数 15,定員 365, 客室 134）
知夫村（施設数 6,定員 68, 客室 21）
隠岐の島町（施設数 41,定員 1,176, 客室 396）
3 町 1 村の合計（施設数 71,定員 1,906, 客室 640）

【利便性：区域までの交通、域内交通】

〈航空〉
隠岐の島町に隠岐空港（滑走路 2,000m）がある。
隠岐⇔出雲（約 30 分,JAL 便 1 日 1 往復）
隠岐⇔伊丹（約 50 分,JAL 便 1 日 1 往復）

〈船舶〉
・高速船１隻：本土（境港・七類）⇔海士（菱浦）・西ノ島（別府）・隠岐の島（西郷）（約 60 分,1 日 1 往復（冬季休航））
・フェリー３隻：本土（境港・七類）⇔海士（菱浦）・西ノ島（別府）・知夫（来居）、隠岐の島（西郷）（約 2 時間 30 分～約 4 時間 50 分,1 日各 1 往復）

・海士（菱浦）・西ノ島（別府）・知夫（来居）の３島を循環するフェリー1隻（1日8便）、小型船1隻（1日13便)がある。

〈島内交通〉
（海士町）
路線バス：2線
タクシー：2社
レンタカー：1社
観光船：海中展望船4便（冬季休業）
（西ノ島町）
路線バス：4線
観光バス：2便（冬季休業）
タクシー：2社
レンタカー：2社
観光船：3便（冬季休業）
（知夫村）
デマンドバス・タクシー：1社
レンタカー：1社
観光船：不定期
（隠岐の島町）
路線バス：9線
貸切バス：2社、タクシー：9社、レンタカー：5社
観光船：八尾川周遊かっぱ遊覧船、ローソク島遊覧船（冬季休業）

【外国人観光客への対応】
外国人観光客受入について、ハード・ソフト両面の整備の充実化を図っている。トイレの洋式化・洗浄便座化やWi-Fi設備の整備、英語表記の案内板などの整備のほか、多言語案内システムや多言語バーチャルジオツアーシステムの構築、外国語認定ガイドの養成、認定ジオガイドの資格取得の促進などに取り組んでいる。
当機構では、JETプログラムを利用して米国からの国際交流員を受け入れることによりインバウンドへの対応を強化している。当機構のサイトは日本語の他、英語により発信している。更に、隠岐ジオパークを紹介した冊子は日本語の他、英語、韓国語、中国語（簡)、フランス語版を作成、配布している。
また、各地の観光担当課や観光協会では外国人スタッフを任用し、窓口案内、サイトや観光案内パンフレット（冊子）について多言語対応を行っている。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	各島観光協会を通じて毎月調査を実施。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Googleアナリティクスを活用し随時把握している。
島民関心度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	アンケート調査を自主事業として実施。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

隠岐は、自然、歴史、文化など優れた観光資源を豊富に有し、1970 年代の離島ブームにより観光客は増加してきた。しかしながら、近年の観光動向は観光に対する嗜好の変化や海外旅行の常態化などにより、隠岐への観光が低調傾向にある。隠岐の主要産業である観光について、インバウンドを含めた個人客の受入れの取組みを推進するとともに、隠岐の知名度向上や、地域の特色を活かした観光商品の開発、受入れ体制の強化などにより、その振興を図る必要に迫られている。
ジオパークは、保全と活用のバランスを取りながら地域の振興に寄与する取組みを進めることを大きな目標としている。地域振興推進のため、当機構が観光地域づくり法人(DMO)として隠岐ユネスコ世界ジオパークを活用したジオツーリズムの推進に取り組み、交流人口の拡大を目指す。
また、人口減少も進んでおり、就業者数の高齢化等の影響で就業者や事業所が減少傾向にある。こうした地域の課題に対し、観光地域づくり法人（ＤＭＯ）を中心として既存の観光資源を活用した観光地域づくりを図り、新たな雇用の創出や担い手不足の解消につなげることとしている。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・世界ジオパークに認定されており、黒曜石を通じた古代からの人の営みや隠岐諸島の成り立ちや大陸的な地質、離島という環境に起因する不思議な植物分布など中核となり得るものが多い。**	**弱み（Weaknesses）** **・離島のため、交通アクセス（航空、船舶）や島内移動（2 次交通やレンタカー）に限界がある。** **・自然環境を観光の売りにしている一方で、自然を楽しむ商品化されたアクティビティが少ない。営業期間も限られる。**
外部環境	**機会（Opportunity）** **・コロナ禍を経て、自然、アウトドアアクティビティを求める傾向にある。**	**脅威（Threat）** **・島内では、少子高齢化や人口減少が一層進んでいるため、若い観光人材の確保が難しい。**

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層
歴史や文化に興味のある知的層

○選定の理由
歴史・文化に関心のある層や地質や生物・植物について専門的に関心のある層や教育を目的とした学生等を効果的に取り組むことを目的とする。

○取組方針
野外コンテンツの環境整備並びに商品開発を行う。繁忙期の夏季のみならず通年の魅力を提供する。

○第２ターゲット層
自然を満喫したいアクティブ層

○選定の理由
世界ジオパーク認定に伴う世界基準の自然文化環境について本格志向のアクティブ層を対象とする。

○取組方針
多言語による情報発信や外国人向けガイドの育成。本格的な野外コンテンツの整備に注力する。

○第３ターゲット層 **癒しを求めるリフレッシュ層**
○選定の理由 幅広い年齢層にわたり、日常の喧騒から離れて静かに過ごしたいと考えている層は、隠岐に親和性が高いため。 ○取組方針 絶景や神秘性に没入でき、日常を忘れさせる体験の提供及びプロモーション。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	『隠岐ユネスコ世界ジオパークの自然・文化・歴史を活用した観光交流』 （日本海の孤島が生み出した荘厳な大地と独自の生態系、そして人の営みが織りなす景観をテーマとした観光交流の拡大（ジオツーリズム））
②コンセプトの考え方	前述①のコンセプトを一般の方にもわかりやすく伝え、興味を持ってもらうために隠岐ユネスコ世界ジオパークでは次の 3 つの要素に分けている。 ⑴隠岐諸島が形成された「大地の成り立ち」 ユーラシア大陸の縁辺であった時代から、湖の時代、海の時代、島根半島の先端の時代を経て現在のような離島となった隠岐諸島の成り立ち。 ⑵大地の上に成り立つ「独自の生態系」 北方系、南方系、亜高山性、大陸性の植物が共存する不思議な植物分布。 ⑶古代から続く「人の営み」 約 3 万年前から石器の材料として用いられた隠岐の黒曜石を通した古代からの人の営み。 さらに、不思議な生態系や独特の歴史・文化について「地質」「地理」「地形」「歴史」「地域」「地球」の 6 つのキーワードを用いて考えると、小さな離島に居ながらも「地球とは何か」を知ることができる貴重な地域である。 隠岐ユネスコ世界ジオパークは、これらの貴重な地域資源を活用し、隠岐の人々が誇りと愛情をもって隠岐を語り伝えられるようになることによって、ユネスコの目的に沿う持続可能な経済活動、文化活動を推進し、隠岐地域の活性化と振興を図ることを目的としている。 当機構では、特異な地質景観の動画や写真を WEB や冊子等の媒体により発信及びシーカヤックやサイクリング、登山等により体感できるプログラムを国内外に紹介することにより訪問意欲の誘発を図っている。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	当機構に設置されている総会は年 2 回、理事会は年 3 回、地域づくり推進会議年 2 回程度、2 つの専門部会については年 3 回から 6 回程度開催を予定している。適宜、KPI 指標や観光統計に係る分析を行っている。 観光プロモーションについて、2 つの専門部会のうち、観光部会において検討している。その他、各町村観光協会及び各町村の観光担当課や島根県隠岐支庁との戦略に向けた会議を随時開催している。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	１）外国語ガイドの認定 ２）ジオパークガイドの認定 ３）お土産等への品質認定制度（「隠岐ユネスコ世界ジオパーク認定商品」）の実施（審査委員会による認定）
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	・テレビ、雑誌、WEB・SNS を利用した効果的なプロモーションの実施。 ・当機構の窓口（カウンター）や中核・拠点施設や各地域に設置された展示による情報発信。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	1,300	2,690	2,862	2,981	3,100	3,221
	実績	2,372	2,867	3,295			
●延べ宿泊者数（人）	目標	75,200	77,600	80,000	83,000	86,000	89,000
	実績	65,365	70,348	77,247			
●来訪者満足度（%）	目標	80 (80)	85 (85)	85 (85)	85 (85)	85 (85)	85 (85)
	実績	94 (80)	87 (94)	89 (94)			
●リピーター率（%）	目標	12 (－)	13 (－)	14 (－)	15 (－)	16 (－)	17 (－)
	実績	23.8 (－)	25 (－)	29 (－)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値（R3・4 は新型コロナの影響で未実施）

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

『隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想（令和 2 年 4 月)』には、隠岐ジオパークが持続可能な経済活動、文化活動を推進し、地域の活性化と振興を図ることを目的と掲げ、この目的を達成するために具体的な数値目標として、「来訪者の満足度」のほか、交流人口数（来島観光客数)、再来訪意向の割合及び島民の関心度を設定している。これらの数値を達成すべき目標年度は 5 年後に設定し、評価・検証を明確に確認できるようにしている。

また、合併前の隠岐観光協会では、隠岐諸島の観光が目指す姿（将来像)、数値目標、取り組みの方向性についてとりまとめた『隠岐諸島における今後の観光振興の中長期ビジョン（以下、「中長期ビジョン」という。)』（令和 2 年 3 月）を策定した。この中の総括目標として「延べ宿泊客数」を掲げている。更に個別目標として「推定観光客数」のほか、外国人入込客数、観光目的の平均宿泊数、2 泊 3 日以上の宿泊比率、2 年以内に来島するリピーター観光客の割合、観光目的の平均来島回数及びファンクラブの人数を記している。

こうしたことから「必須 KPI」は、隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想から「来訪者満足度」について、中長期ビジョンから「延べ宿泊客数」、「旅行消費額（島内消費額×推定観光客数）※詳細は【設定にあたっての考え方】に記載」を採用した。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

旅行消費額（島内消費額×推定観光客数）については、昨年度コロナが落ち着いたことを鑑み中長期ビジョンで設定した 2029 年度推定観光客数 55,000 人と一人当たりの消費単価 63,000 円に設定し 2029 年度消費額の目標を 3,465 百万円とし、各年度の推定観光客数と一人当たりの消費単価目標値を設定し直した。

●延べ宿泊者数
　中長期ビジョンでは、延べ宿泊者数について 2018 年 60,085 人泊を基準として、2024 年 80,000 人泊、2029 年 95,000 人泊と目標値を定めている。ここでは、2024 年 80,000 人泊を目標として定め、2019 年度及び 2020 年度の目標値について（2024 年）80,000 人泊から（2018 年）60,085 人泊の差を 6（年）で除した数値を前年の数値に足した数値とした。外国人については回答者が少ないため記載していない。
●来訪者満足度
　隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想で定める来訪者満足度 80%以上を全体数及び外国人目標指数とした。なお、10 段階評価うち上位 3 段階を採択する。
●リピーター率
　コロナウィルスが収束するまでの間はコロナウィルス発生以前の 3 年間（2017 年～2019 年）の平均値（41%）を維持することとした。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●Web サイトのアクセス状況【回】	目標	1,300,000	1,800,000	2,000,000	2,200,000	2,400,000	2,600,000
		（－）	（－）	（－）	（－）	（－）	（－）
	実績	1,467,933	2,465,369	3,344,384			
		（－）	（104,943）	（86,372）			
●交流人口数（観光客数）（人）	目標	43,000	48,500	54,000	54,200	54,400	54,600
		（300）	（1,000）	（3,000）	（3,500）	（4,000）	（4,500）
	実績	44,195	49,395	52,154			
		（69）	（522）	（631）			
●再来訪意向の割合（%）	目標	80	80	80	80	80	80
		（80）	（80）	（80）	（80）	（80）	（80）
	実績	85	81	85			
		（0）	（0）	（0）			
●観光目的の平均宿泊数（日帰客を除く）（%）	目標	1.6	1.7	1.75	1.8	1.85	1.85
	実績	2.2	2.2	2.2			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値（R3～5 は新型コロナの影響で未実施）

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
　『隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想（令和 2 年 4 月)』には、隠岐ジオパークが持続可能な経済活動、文化活動を推進し、地域の活性化と振興を図ることを目的に掲げ、この目的を達成するために、具体的な数値目標として、「交流人口数（来島観光客数)」、「再来訪意向の割合」のほか来訪者の満足度を設定している。この数値を達成すべき目標年度は、5 年後に設定し、評価・検証を明確に確認できるようにしている。
　また、R 元年度に隠岐観光協会で、隠岐諸島の観光が目指す姿（将来像)、数値目標、取り組みの方向性についてとりまとめた『隠岐諸島における今後の観光振興の中長期ビジョン（以下、「中長期ビジョン」という。)』（令和 2 年 3 月）を策定した。この中の総括目標として延べ宿泊客数を掲げている。更に個別目標として「観光目的の平均宿泊数」のほか、推定観光客数、外国人入込客数、2 年以内に来島する観光客の割合、観光目的の平均来島回数及びファンクラブの人数を記している。
　こうしたことから、『その他の目標』は、隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想から「交流人口数（来島観光客数)」、「再来訪意向の割合」について、中長期ビジョンから「観光目的の平均宿泊数」を採用した。

【設定にあたっての考え方】

●観光客数

隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想では、交流人口数（来島観光客数）について 2018 年 52,973 人を基準として、2024 年 54,000 人、2029 年 55,000 人と目標値を定めている。ここでは、2024 年 54,000 人を目標として定め、2019 年度及び 2020 年度の目標値について、（2024 年）54,000 人から（2018 年）52,973 人の差を 6（年）で除した数値を前年の数値に足した数とした。同様に中長期ビジョンでは、外国人入込客数について 2018 年 456 人を基準として、2024 年 3,000 人、2029 年 5,500 人と目標値を定めている。ここでは、2024 年 3,000 人を目標として定め、各年の目標値について、（2024 年）3,000 人から（2018 年）456 人の差を 6（年）で除した数値を前年の数値に足した数とした。

●再来訪意向の割合

隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想で定める再来訪意向の割合について 80%以上を全体数及び外国人の目標値とした。なお、10 段階評価のうち上位３段階を採択する。

●観光目的の平均宿泊数（日帰客を除く）

中期ビジョンでは、観光目的の平均宿泊数（日帰客を除く）について 2018 年 1.5 泊を基準として、2024 年 1.7 泊、2029 年 2 泊と目標値を定めている。ここでは、2024 年 1.7 泊を目標として定め、各年の目標値について、（2024 年）1.7 泊から（2018 年）1.5 泊の差を 6（年）で除した数値を前年の数値に足した数とした。外国人については回答者が少ないため記載していない。

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度	274,111,957（円）	【島根県からの負担金】30,040,000 円 【自治体からの負担金】86,351,000 円 （海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町） 【その他負担金】2,235,441 円（(株) JTB 事業費） 【国からの補助金】11,935,953 円（観光庁・環境省） 【島根県からの補助金】35,039,236 円（観光振興事業） 843,000 円（自然公園事業） 【島根県からの受託金】7,368,900 円 （子供向けジオパーク体験事業） 【自治体からの補助金】71,363,525 円 （有人国境離島交付金事業等） 【業務受託金】4,000,000 円（海士町拠点施設解説業務） 1,996,588 円（島根県隠岐支庁県民局） 【指定管理料】8,400,000 円 （隠岐の島町中核拠点施設管理運営） 【事業収入】1,794,591 円（広告収入、講師・ガイド料他） 【企業会費】860,000 円 【入館料】3,669,200 円 【寄付金】122,000 円 【雑収入】4,595,378 円（戻入、寄付金、預金利息他） 【繰越金】3,497,145 円
2023（Ｒ５）年度	304,985,103（円）	【島根県からの負担金】32,140,000 円 【自治体からの負担金】89,552,000 円 （海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町） 【国からの補助金】10,223,054 円（観光庁） 【島根県からの補助金】37,825,519 円（観光振興事業） 3,513,000 円（自然公園事業） 【自治体からの補助金】61,256,933 円 （有人国境離島交付金事業等） 4,000,000 円（海士町） 【業務受託金】4,000,000 円（海士町拠点施設解説業務）

		38,972,000 円（NTT コミュニケーションズ） 【指定管理料】8,400,000 円 （隠岐の島町中核拠点施設管理運営） 【事業収入】1,984,807 円（広告収入、講師・ガイド料他） 【企業会費】860,000 円 【入館料】4,550,300 円 【寄付金】5,000 円 【雑収入】4,908,395 円（戻入、寄付金、預金利息他） 【繰越金】2,794,095 円
2024（Ｒ６） 年度	271,536,080 （円）	【島根県からの負担金】32,140,000 円 【自治体からの負担金】106,450,000 円 （海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町） 【国からの補助金】7,002,520 円（観光庁） 【島根県からの補助金】31,899,507 円（観光振興事業） 【自治体からの補助金】52,218,961 円 （有人国境離島交付金事業等） 10,000,000 円（隠岐の島町） 【環境財団助成金】283,000 円（しまね自然と環境財団） 【日本海事科学振興財団】841,327 円 【業務受託金】4,000,000 円（海士町拠点施設解説業務） 【指定管理料】8,400,000 円 （隠岐の島町中核拠点施設管理運営） 【事業収入】4,246,842 円（広告収入、講師・ガイド料他） 【企業会費】860,000 円 【入館料】4,750,750 円 【雑収入】5,377,849 円（戻入、寄付金、預金利息他） 【繰越金】3,065,324 円
2025（Ｒ７） 年度	303,825,689 （円）	【島根県からの負担金】32,140,000 円 【自治体からの負担金】124,997,000 円 （海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町） 【国からの補助金】27,320,490 円（観光庁） 【島根県からの補助金】32,000,000 円（観光振興事業） 【自治体からの補助金】47,666,000 円 （有人国境離島交付金事業等） 【業務受託金】4,000,000 円（海士町拠点施設解説業務） 4,953,000 円（隠岐の島町地域おこし協力隊） 【指定管理料】8,400,000 円 （隠岐の島町中核拠点施設管理運営） 【事業収入】6,630,000 円（広告収入、講師・ガイド料他） 【企業会費】860,000 円 【入館料】5,680,000 円 【雑収入】3,502,608 円（戻入、寄付金、預金利息他） 【繰越金】5,676,591 円
2026（Ｒ８） 年度	265,849,000 （円）	【島根県からの負担金】32,140,000 円 【自治体からの負担金】120,000,000 円 （海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町） 【島根県からの補助金】32,000,000 円（観光振興事業） 【自治体からの補助金】47,666,000 円 （有人国境離島交付金事業等） 【業務受託金】4,000,000 円（海士町拠点施設解説業務） 4,953,000 円（隠岐の島町地域おこし協力隊） 【指定管理料】8,400,000 円 （隠岐の島町中核拠点施設管理運営）

		【事業収入】6,630,000 円（広告収入、講師・ガイド料他） 【企業会費】860,000 円 【入館料】5,700,000 円 【雑収入】3,500,000 円（戻入、寄付金、預金利息他）
2027（Ｒ９） 年度	265,849,000 （円）	【島根県からの負担金】32,140,000 円 【自治体からの負担金】120,000,000 円 （海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町） 【島根県からの補助金】32,000,000 円（観光振興事業） 【自治体からの補助金】47,666,000 円 （有人国境離島交付金事業等） 【業務受託金】4,000,000 円（海士町拠点施設解説業務） 4,953,000 円（隠岐の島町地域おこし協力隊） 【指定管理料】8,400,000 円 （隠岐の島町中核拠点施設管理運営） 【事業収入】6,630,000 円（広告収入、講師・ガイド料他） 【企業会費】860,000 円 【入館料】5,700,000 円 【雑収入】3,500,000 円（戻入、寄付金、預金利息他）

（２）支出

年（年度）	総支出（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	271,317,862 （円）	【一般管理費】113,341,907 円 【基本計画策定事業】6,278,000 円 【ブランディング事業】5,509,700 円 【ジオパークネットワーク事業】6,467,084 円 【教育推進事業】8,485,337 円 【誘客促進事業】106,588,430 円 【着地整備事業】18,024,567 円 【周辺産業への波及事業】609,210 円 【保全事業】207,900 円 【学術研究事業】2,969,770 円 【マネジメント事業費】2,835,957 円
2023（Ｒ５） 年度	301,919,779 （円）	【一般管理費】105,537,007 円 【ブランディング事業】14,596,035 円 【ジオパークネットワーク事業】6,343,366 円 【教育推進事業】9,988,638 円 【誘客促進事業】86,031,289 円 【着地整備事業】64,451,577 円 【周辺産業への波及事業】946,060 円 【保全事業】1,338,586 円 【学術研究事業】3,000,849 円 【マネジメント事業費】9,686,372 円
2024（Ｒ６） 年度	265,859,489 （円）	【一般管理費】127,537,306 円 【基本計画策定事業】2,069,996 円 【ブランディング事業】6,051,410 円 【ジオパークネットワーク事業】5,025,462 円 【教育推進事業】2,265,899 円 【誘客促進事業】70,446,471 円 【着地整備事業】23,434,993 円 【ツーリズム事業】6,999,949 円 【周辺産業への波及事業】942,271 円 【保全事業】391,408 円 【学術研究事業】1,719,975 円 【マネジメント事業費】18,974,349 円
2025（Ｒ７）	303,825,689	【一般管理費】140,651,808 円 【基本計画策定事業】2,000,000 円

年度	（円）	【情報発信事業】33,553,490 円 【ジオパークネットワーク事業】7,491,100 円 【教育推進事業】2,170,000 円 【誘客促進事業】79,232,000 円 【着地整備事業】10,341,650 円 【ツーリズム事業】7,000,000 円 【周辺産業への波及事業】830,000 円 【保全事業】389,000 円 【学術研究事業】2,103,050 円 【マネジメント事業費】15,387,000 円 【予備費】2,676,591 円
2026（Ｒ８） 年度	265,849,000 （円）	【一般管理費】140,000,000 円 【基本計画策定事業】2,000,000 円 【情報発信事業】20,000,000 円 【ジオパークネットワーク事業】5,000,000 円 【教育推進事業】2,000,000 円 【誘客促進事業】65,449,000 円 【着地整備事業】10,000,000 円 【ツーリズム事業】7,000,000 円 【周辺産業への波及事業】800,000 円 【保全事業】400,000 円 【学術研究事業】2,200,000 円 【マネジメント事業費】11,000,000 円
2029（Ｒ９） 年度	265,849,000 （円）	【一般管理費】140,000,000 円 【基本計画策定事業】2,000,000 円 【情報発信事業】20,000,000 円 【ジオパークネットワーク事業】5,000,000 円 【教育推進事業】2,000,000 円 【誘客促進事業】65,449,000 円 【着地整備事業】10,000,000 円 【ツーリズム事業】7,000,000 円 【周辺産業への波及事業】800,000 円 【保全事業】400,000 円 【学術研究事業】2,200,000 円 【マネジメント事業費】11,000,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

隠岐ユネスコ世界ジオパークの中核・拠点施設として隠岐の島町に設置している「ビジターセンター」の指定管理業務を請け負っており、指定管理費用が収入となっている。今後は、目的税等来島者から幅広く徴収する仕組みを検討し財務戦略を策定する。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

島根県及び海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町は、一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構を当該都道府県及び市町村における地域連携ＤＭＯとして登録したいので一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構とともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

エリアが重複する山陰ＤＭＯ、島根県観光連盟とは、年に数回連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

山陰 DMO は広域連携 DMO で当 DMO が地域連携 DMO のため。

島根県観光連盟は島根県全体、当 DMO は隠岐地域全体を区域としている。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

インバウンド施策（特にプロモーション）については山陰 DMO が中心となり展開しており、島根県観光連盟は国内誘客、当 DMO ではコンテンツ開発、受入れ態勢整備を中心に活動を行っている。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

情報共有がしっかり出来れば、効率的、効果的な取り組みが出来ると期待している。

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	角橋　隼人
担当部署名（役職）	事務局次長
郵便番号	685-0013
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町中町目貫の四 61
電話番号（直通）	08512-2-1577
ＦＡＸ番号	08512-2-1406
Ｅ－ｍａｉｌ	kadohashi@oki-geopark.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	島根県
担当者氏名	宮原　竜二
担当部署名（役職）	隠岐支庁県民局総務企画部長兼観光振興課長
郵便番号	685-0015
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町港町塩口 24
電話番号（直通）	08512-2-9602
ＦＡＸ番号	08512-2-9626
Ｅ－ｍａｉｌ	oki-kemmin@pref.shimane.lg.jp

都道府県･市町村名	海士町
担当者氏名	柏谷　猛
担当部署名（役職）	交流促進課長
郵便番号	684-0404
所在地	島根県隠岐郡海士町大字福井 1365-5
電話番号（直通）	08514-2-0017
ＦＡＸ番号	08514-2-0358
Ｅ－ｍａｉｌ	kashiwadani-takeshi@town.ama.shimane.jp

様式１

都道府県･市町村名	西ノ島町
担当者氏名	村上　充宏
担当部署名（役職）	産業振興課長
郵便番号	684-0303
所在地	島根県隠岐郡西ノ島町美田 600 番地 4
電話番号（直通）	08514-6-1220
ＦＡＸ番号	08514-6-0683
Ｅ－ｍａｉｌ	info@town.nishinoshima.shimane.jp

都道府県･市町村名	知夫村
担当者氏名	﨑　博一
担当部署名（役職）	地域創生課主査
郵便番号	684-0100
所在地	島根県隠岐郡知夫村 1065
電話番号（直通）	08514-8-2211
ＦＡＸ番号	08514-8-2093
Ｅ－ｍａｉｌ	chiiki@vill.chibu.lg.jp

都道府県･市町村名	隠岐の島町
担当者氏名	藤野　一
担当部署名（役職）	商工観光課長
郵便番号	685-8585
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町下西 78-2
電話番号（直通）	08512-2-8575
ＦＡＸ番号	08512-2-3302
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@town.okinoshima.shimane.jp

（登録）【地域連携DMO】一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構

様式２

記入日：　令和7年7月30日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
隠岐諸島（島根県隠岐郡海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町）
【設立時期】令和2年4月1日
【設立経緯】
①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】理事長　池田高世偉（隠岐の島町長）
【マーケティング責任者（CMO）】 河本　直起（専従）
【財務責任者（CFO）】 角橋　隼人（専従）
【職員数】 24人（常勤24人（正職員12人・嘱託、出向等12人））
【主な収入】
行政負担金・補助金等　238百万円　収益事業　6.5百万円、受託事業　51百万円　その他　8.5百万円（令和5年度決算）
【総支出】
事業費　196百万円、一般管理費　105百万円（令和5年度決算）
【連携する主な事業者】
企業：隠岐一畑交通、隠岐汽船、モンベル、JTB、イオン 他
観光団体：4町村観光協会、隠岐しぜんむら、山陰観光開発（株）他

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	1,300（－）	2,690（－）	2,862（－）	2,981（－）	3,100（－）	3,221（－）
	実績	2,372（－）	2,867（－）	3,295（－）	—	—	—
延べ宿泊者数（人）	目標	75,200（－）	77,600（－）	80,000（－）	83,000（－）	86,000（－）	89,000（－）
	実績	65,365（－）	70,348（－）	77,247（－）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	80（80）	85（85）	85（85）	85（85）	85（85）	85（85）
	実績	94（80）	87（94）	89（94）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	12（－）	13（－）	14（－）	15（－）	16（－）	17（－）
	実績	23.8（－）	25（－）	29（－）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
①歴史や文化に興味のある知的層
②自然を満喫したいアクティブ層
③癒しを求めるリフレッシュ層

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
・野外コンテンツの環境整備並びに商品開発、多言語による情報発信や外国人向けガイドの育成。
・日常を忘れさせる体験の提供及びプロモーション。

【観光地域づくりのコンセプト】
隠岐ジオパークの自然・文化・歴史を活用した観光交流

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・外国人向け観光コンテンツ開発
・モニターツアーの実施、旅行商品造成

【受入環境整備】
・多言語による解説看板の設置
・ジオパーク、外国語ガイドの育成
・地域版OTA、DMP導入によるCRMシステムの構築

【情報発信・プロモーション】
・多言語による案内冊子の作成、配布
・中核拠点施設（ビジターセンター）による発信
・WEB、SNS等でのプロモーション動画、映像配信